

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (ことば編)
- 3 童 謡 茶摘み
- 4 回 文 西が東に
- 5 今月の詩 春の日の夕暮 中原中也
- 6 たし算 2の段
- 7 ことわざ 二階から目薬 憎まれっ子世にはばかる
二度あることは三度ある 二兎を追うものは一兎をも得ず
逃がした魚は大きい
- 8 かけ算 3の段
- 9 俳 句 小林一茶 松尾芭蕉 山本荷兮
- 10 かぞえうた 1枚 1台 1帖 (着物、電話、海苔)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた かごめかごめ
- 13 今月のうた イギリスのうた
- 14 慣用句 身にしみる 油を売る 当てがはずれる
- 15 イメージトレーニング スティーム (第2話 スティームの中)
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし つるのおんがえし
- 17 漢 詩 友人を送る
- 18 百人一首 藤原敏行朝臣 平兼盛 春道列樹 藤原道信朝臣
- 19 復習コーナー
- 20 暗 示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

にし ひがし
西が東に

西 → 東



にしがひがしに

西	が	東	に
---	---	---	---



はる ひ ゆうぐれ
春の日の夕暮

なかはらちゅうや
中原中也

トタンがセンベイ^た食べて
^{はる ひ ゆうぐれ おだや}
春の日の夕暮は穏かです
アンダースロー^{はい}された灰が蒼^{あお}ざめて
^{はる ひ ゆうぐれ しず}
春の日の夕暮は静かです

ああ か か し
吁！ 案山子^{いなな}はないか—あるまい
^{うまいなな いなな}
馬嘶^{うまいなな}くか—嘶^{いなな}きもしまい
ただただ^{つき ひかり}月の光のヌメランとするまゝ^まに
^{じゅうじゆん はる ひ ゆうぐれ}
従順^{じゅうじゆん}なのは 春の日の夕暮か

ポトポト^{の なか が らん あか}と野の中に伽藍は紅く
^{に ば しゃ しゃ りん あぶら うしな い}
荷馬車の車輪^{わたし れき してき げん ざい}油を失^{もの い え}ひ
私が^{あざけ あざけ}歴史的^{そら やま}現在に物を云へば
嘲^{あざけ}る嘲^{あざけ}る 空と山とが

かわら いち まい
瓦が一枚^{はる ひ ゆうぐれ}はぐれしました
これから^{む ごん}春の日の夕暮は
無^{みづか}言^{じょうみやくかん}ながら前^{なか}進^{しん}します
自^{みづか}らの静^{じょうみやくかん}脈管の中へです



ことわざ

に かい めぐすり
二階から目薬

まわ しく だん もち すこ こう か あ
回りくどい手段を用いて、少しも効果が上がらない
こと。



にく こよ
憎まれっ子世にはばかる

ひと にく もの せ けん はば
人に憎まれるような者が、かえって世間では幅を
きかす。



に ど さん ど
二度あることは三度ある

ものごと く かえ お おお
物事は繰り返して起こることが多い。



に と お いっ と え
二兎を追うものは一兎をも得ず

どう じ ふた よく りょう ほう
同時に二つのことをしようと欲ばると、両方とも
うまくいかないものである。



に さかな おお
逃がした魚は大きい

て い じっさい りっ ぱ おも
手に入れそこなったものは、実際よりも立派に思わ
れるものだ。



俳句

われ き 我と来て あそ おや 遊べや親の ない 雀

こばしいっさ
小林一茶



しほう 四方より はなふ い 花吹き入れて におの 海

まつ お ば しょう
松尾芭蕉



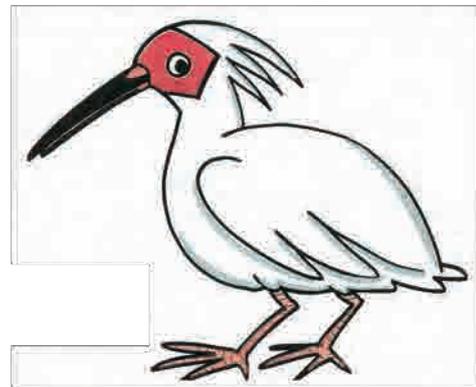
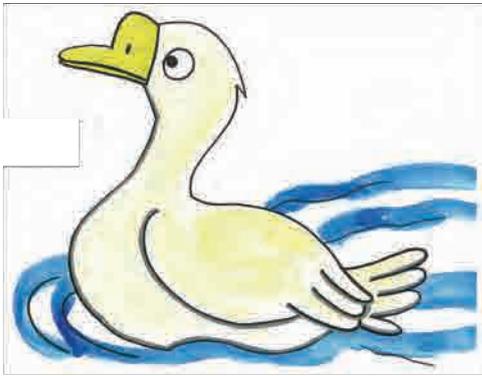
はる 春めくや ひと 人さまさまの いせ 伊勢まいり

やま もと か けい
山本荷兮



なぜなぜ

- 1 チョウチョとガが、一緒いっしょになったよ。なんという鳥とりかな？
- 2 時計とけいを持もっている鳥とりはなあに？
- 3 新聞しんぶんにたくさんのとっている鳥とりはなあに？
- 4 とびはとびでも、空そらは飛とべないで、地面じめんの上うえをとんでいるとびはなあに？



《かごめかごめ》

- ① かごめ かごめ
かごの中の^{なか} とりは
いついつ^で 出やる
よあけのばんに
つるとかめが すべった



手をつないで おにをかこみ
うたいながら まわる

- ② うしろのしょうめん だあれ



手をはなし、その^ば場にすわる
おには、後ろの子^{うしろ}をだれだか
あてる。

《イギリスのうた》

イギリスは

イングランド ウェールズ スコットランド 北^{きた}アイルランドの
4^{ち いき}地域からなりたち

正式^{せいしき}な名前^{なまえ}は グレートブリテンおよび北^{きた}アイルランド^{れんごうおうこく}連^{れん}合^{ごう}王^{おう}国^{こく}

国^{こく}土^どは 大^{たい}西^{せい}洋^{よう} 北^{ほっ}海^{かい}などに^{かこ}囲^こまれた 島^{しま}国^{くに}で

サ^さッ^っカ^かー ラ^らグ^ぐビー ゴ^ごルフ ク^くリ^りケ^けットなどの^{はっしょう}発^ち祥^{しょう}の地^ち

気^き候^{こう}は 西^{せい}岸^{がん}海^{かい}洋^{よう}性^{せい}気^き候^{こう} 首^{しゅ}都^とはロ^ろン^んド^ん

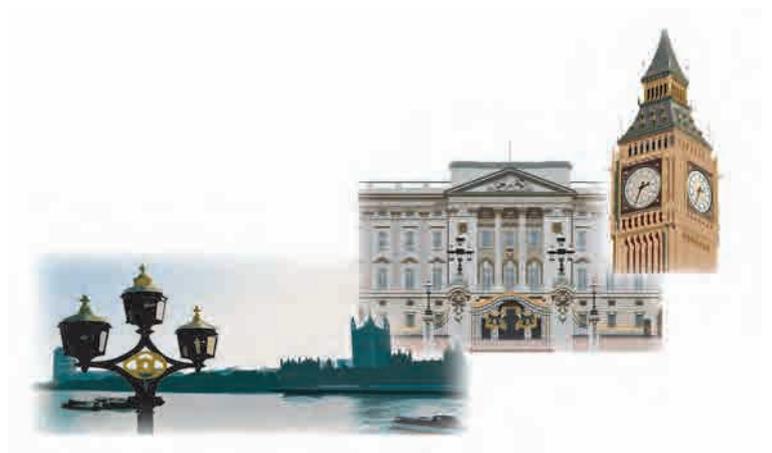
バ^ばッ^っキ^きン^んガ^がム^む宮^{きゅう}殿^{でん} ウ^うエ^えス^すト^とミ^みン^んス^すタ^たー^じ寺^{いん}院^{えん} 大^{たい}英^{えい}博^{はく}物^{ぶつ}館^{かん}

テ^てム^むズ^ず川^{がわ}の^{がわ}ほ^ほと^とり^りに^には 国^{こっ}会^{かい}議^ぎ事^じ堂^{どう}とビ^びグ^ぐベ^べン

18^{せい}世^き紀^おに^に起^ききた 産^{さん}業^{ぎょう}革^{かく}命^{めい} 織^{せん}維^い工^{こう}業^{ぎょう}が^はっ^たつ

恵^{めぐ}まれた^{せき}石^{たん}炭^{てっ}と^{こう}鉄^{せき}鉱^{てっ}石^{こう}で 鉄^{てっ}鋼^{こう}業^{ぎょう}や^{ぞう}造^{せん}船^{ぎょう}業^がは^はっ^たつ

植^{しょく}民^{みん}地^ちから^{げん}原^{りょう}料^ゆ輸^{にゅう}入^う 製^{せい}品^{ひん}に^うし^て売^る 加^か工^{こう}貿^{ぼう}易^{えき}



みにしみる

からだ 体にこたえる。また、しみじみと心こころに感かんじること。



あぶら う 油を売る

むだばなし 無駄話などをして仕事しごとをさぼること。



あ 当てがはずれる

よそう きたい はん 予想や期待に反する結果けっかになる。





「つるのおんがえし」は、おじいさんに^{たす}助けてもらった^{つる}鶴が^{おんがえ}恩返しをする^{はなし}お話です。お話を聞いた^{あと}後で、^{しつもん}質問にこたえてみましょう。

- 1 雪の^{ゆき}降る^ふ夜^よ更^ふけに^き来たのは^{だれ}誰ですか。
- 2 おじいさんは、^{なに}何を^う売って、^{こめ}米や^{みそ}味噌を^か買いましたか。
- 3 ^{むすめ}娘は、^{なに}何を^ぬ抜いて、^{ぬの}布を^お織っていましたか。
- 4 ^{つる}鶴はどうして、おじいさんと^{おばあさん}おばあさんの^{ところ}所へ^き来たのでしょうか。
- 5 おじいさんは^{つる}鶴に、^{なに}何を^な投げましたか。



友人を送る

李

白

青山 北郭に横たわり
 白水 東城を遶る
 此地 一たび別れを為し
 孤蓬 万里に征く
 浮雲 遊子の意
 落日 故人の情
 手を揮いて
 蕭蕭として
 班馬 鳴く
 茲より去れば



百人一首

住す 岸きみの江えの
にの寄よる波なみの
夢ゆめの通かよひ路じよる
人ひと目めよくらむん

(藤原敏行朝臣)

忍しの色いろぶれ
に出いでにけり
物ものや思おもふと
人ひとわが恋こいは
問とふまで

(平兼盛)

山やまがわの川に
風かぜのかけたる
流ながれもあへぬ
しがらみは
紅葉もみじなりけり

(春道列樹)

明あけぬれば
暮くするものとは
なほおほ恨うらめしき
知しりながら
朝あさぼらけかな

(藤原道信朝臣)



平兼盛